

様式第5号

出張調査報告書

平成29年2月10日

松伏町議会議長 佐藤永子様

会派名 公明党

代表者氏名 川上力



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成29年2月7日から平成29年2月8日まで
2 視 察 地	(1) 秋田県藤里町 2月7日 (2) 秋田県能代町 2月8日
3 視 察 目 的	(1) 藤里町社会福祉協議会 ①若者のひきこもり支援「こみっと」 ②藤里方式の地域福祉について (2) 道の駅 ふたついで 施設の状況及び利用状況
4 視 察 者 氏 名	川 上 力 山 崎 隆一郎
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

公明党松伏町議団 行政調査日程表 (平成29年2月7日～8日)

2月7日 (火)

自宅	ふれあい橋北	新越谷駅	上野駅	浜松町駅	羽田空港第2ビル	大館能代空港	藤里町社協「こみっと」	ホテル
着発	6:00 6:10	6:40 6:48	7:16 7:25	7:39 7:46	8:11 9:15	10:25 11:00	12:00 15:00	16:00
	ジャパンタローズバス	東武線・日比谷線	JR東日本	羽田モノレール	ANA787	ニッポンレンタカー	ニッポンレンタカー	

2月8日 (水)

ホテル	道の駅ふたついで	大館能代空港	羽田空港	浜松町駅	上野駅	新越谷駅	ふれあい橋北	自宅
着発	8:30 9:00 9:30	10:00 11:00	12:15 13:20	13:41 13:50	14:01 14:10	14:40 14:47	15:15	
	ニッポンレンタカー	ニッポンレンタカー	ANA788	羽田モノレール	JR東日本	日比谷線・東武線	ジャパンタローズバス	

2月7日 (火)

ホテル	ゆとりあ藤里	秋田県山本郡藤里町藤琴字上湯ノ沢1-2
	0120-535-362	

藤里町社会福祉協議会 0185-79-2848	① 若者のひきこもり支援「こみっと」 ② 藤里方式の地域福祉について
道の駅ふたついで 0185-73-5075	① 施設状況 ② 利用状況

2月7日 (火)

ふれあい橋北 →	新越谷駅	¥620	乗車券
新越谷駅 →	上野駅	¥946	乗車券
上野駅 →	浜松町駅	¥330	乗車券
浜松町駅 →	羽田空港第2ビル	¥966	乗車券
羽田空港 →	大館能代空港	¥44,980	航空券
大館能代空港 →	藤里町社協	¥7,711	レンタカー
藤里町社協 →	道の駅	¥1,500	ガソリン代
道の駅 →	ホテル	¥0	レンタカー
藤里町社協		¥3,000	視察費用
ゆとりあ藤里		¥13,260	宿泊費
ブードル洋菓子店		¥1,500	土産代
	小計	¥74,813	
	再掲	¥2,862	領収書無

2月8日 (水)

ホテル →	大館能代空港	¥0	レンタカー
大館能代空港 →	羽田空港	¥44,980	航空券
羽田空港第2ビル →	浜松町駅	¥966	乗車券
浜松町駅 →	上野駅	¥330	乗車券
上野駅 →	新越谷駅	¥946	乗車券
新越谷駅	ふれあい橋北	¥620	乗車券
	小計	¥47,842	
	合計	¥122,655	
	再掲	¥2,862	領収書無
	再掲合計	¥5,724	領収書無

平成29年2月10日

松伏町議会議長 佐藤永子様

公明党
代表 川上 力

出張調査報告書

会派で行政視察を行いましたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1 調査年月日

平成29年2月7日から平成29年2月8日まで

2 視察地及び視察目的

- (1) 秋田県藤里町 藤里町社会福祉協議会 2月7日
①若者のひきこもり支援「こみっと」
②藤里方式の地域福祉について
- (2) 秋田県能代市 道の駅ふたつ 2月8日
施設の状況及び利用状況

3 視察者名

川上 力
山崎 隆一郎

4 視察内容及び結果

(1) 藤里町社会福祉協議会

①事業開始の経緯、目的について

3500人の人口、45%を超える高齢化率のなかで、18歳から54歳までの引きこもりに該当する方が113人もいることが判明し引きこもり支援開始。

②実施方法、予算措置等について

町が土地と建物を用意し支援施設「こみっと」を開設。サロンから始め、調理接客ができる食堂をオープンした。その後は店内から外の仕事へと場所を移す「こみっとバンク」に発展。更に就労支援としてヘルパー養成講座もスタートさせている。

③事業における成果等について

平成22年の事業開始時には113人いた引きこもり者が、平成26年には2

5人になり、86人が自立することができた。当初のひきこもり者に対する周囲の捉え方が変わり、今では単に仕事のない普通の若者といった認識になった。

④現在の課題及び、今後の取り組みについて

総務省の補助金交付を受けて「こみっとバンク」とシルバー人材バンクを合わせたプラチナバンクの実現に動き出している。これは町民すべてが生涯現役を目指せる町を志向するもの。年齢に関係なく、働き方も収入・仕事時間・やる気・経験に基づいて登録できる。2010年の若者の引きこもり支援に特化した取り組みから始め、数多くの経験の中から、特別扱いせずに分け隔てのない就労支援が引きこもりからの自立と、社会の担い手への成長を促すことに気が付いたとのこと。このプラチナバンク事業は補助金を活用したモデル事業だが、継続的に事業化するには、町が実施主体になることが望ましいといていた。

(2) 道の駅 ふたつ

①施設の状況及び利用状況

道の駅ふたつは市町村合併前の二ツ井町歴史資料館も併設されている。また、総合観光センターも敷地内にあることから、地域の情報が一括して収集できるようになっている。当日は例年にない雪のため利用状況は多くなかった。近くにガソリンスタンド、コンビニエンスストアもあり国道沿いの拠点になっている。

●感想

川上 力

藤里町社会福祉協議会の取り組みが、視察に伺った2月7日の読売新聞にタイミングよく紹介されていた。全国的に注目される先駆的な事業を常にプラン立てていく力、町民ニーズの把握力、企画力に圧倒されるとともに大変勉強になった。

山崎 隆一郎

今回の藤里町社会福祉協議会への視察は、「福祉でまちづくり」を目指す取組み方、方向性や問題点などを直接、お聞きすることができた。福祉の視線で町内を見渡し、福祉を受ける側と受けさせる側との境界線を取り除くこと。また、受ける側の様々な困っていることを聞き出し、そこにマッチングさせるつなぎ役としての社協としてのありがた。また、全ての住む人の、なにかの役に立ちたいとの気持ちを、汲み取り、生きがいを作ることができたこと。そこから、人を呼び込み、町ぐるみになって行く流れがここにはあった。灯台のように、サーチライトで町を照らしだし、困っている人、困っていることを掘り起こしたように感じましたし、書籍にもあった。報告・連絡・相談の書類から双方向の連絡の積み重ねが、「福祉でまちづくり」につながっていると感じた。

以上